

みんなで
進めよう
バリアフリー

一人ひとりが取り組もう バリアフリーのまちづくり

体の不自由な人や高齢者が安全に安心して社会で活動するには、障壁のない(バリアフリー)まちづくりが必要です。バリアフリーを進めるには、建物などの物理的バリアを取り除くだけでなく、一人ひとりの理解や行動が大切です。

バリアフリーはみんなの願い

バリアフリーとは、体に障害のある人や高齢者が生活するために障壁(バリア)になるものを取り除くことで、バリアフリーの社会を実現するためには、建物の障壁だけでなく、心の障壁も取り除くことが大切です。また、体に障害のある人や高齢者に快適なまちは、すべての人が暮らしやすいまちでもあります。だれもが安全に、そして安心して暮らせるまちにするために、市民、事業者、行政が力を合わせ、みんなでバリアフリーのまちづくりを進めましょう。

バリアのないまちづくりが進んでいます

市では、県が平成十一年四月に施行した「三重県バリアフリーのまちづくり推進条例」に基づいて、不特定多数の人が利用



スロープが付いた超低床ノンステップバス

する建物からバリアを取り除くため、建築主の協力を得て、出入り口や通路のスロープ、誘導ブロック、階段の手すり、手すりや鏡などがあるエレベーターの設置などを促進しています。

また、交通機関では、「超低床ノンステップバス」の導入や近鉄四日市駅のエレベーター設置などのバリアフリー化を支援しています。超低床ノンステップバスは、体に障害のある人や高齢者、車いすやベ

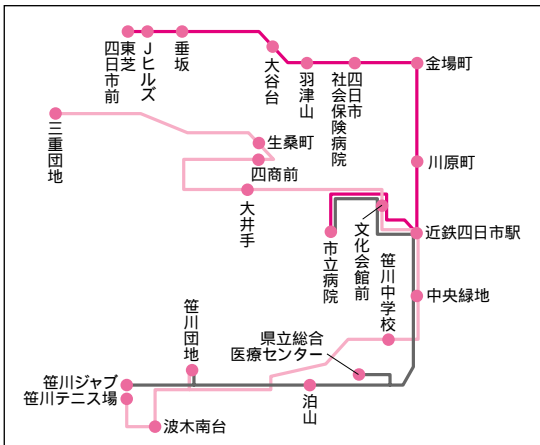


ビーカーでも楽に乗り降りできる乗降口に段差のないバススロープ付き)で、現在、市内の三路線で計六台が運行しています。近鉄四日市駅のエレベーターは、近鉄と協力して、二階コンコースと名古屋線上下線の各プラットホームの間に設置したものです。九人乗りで、車いす一台が乗ることができ、入った方向のまま通り抜けて降りることができ、同駅には、湯の山線などにも設置を検討しています。



設置されたエレベーター
(近鉄四日市駅)

「超低床ノンステップバス」の運行路線図(概略)

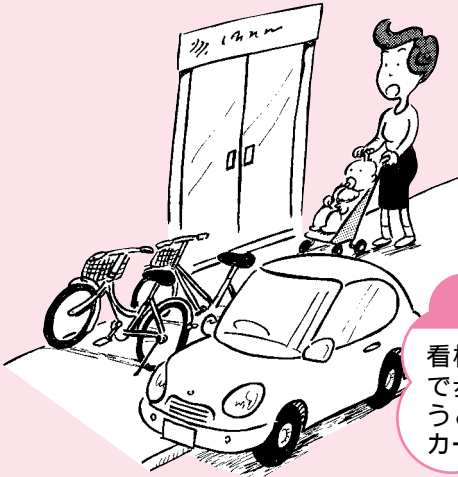
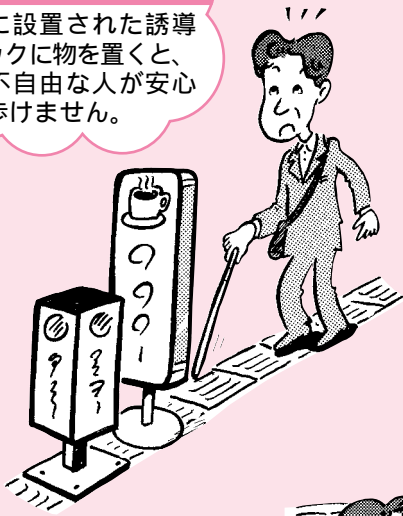


何気なくしていませんか？こんなこと

普段の生活の中で何気なくしていることが、せつかくのバリアフリー設備を台無しにしてしまいます。みんなで気を付けましょう。

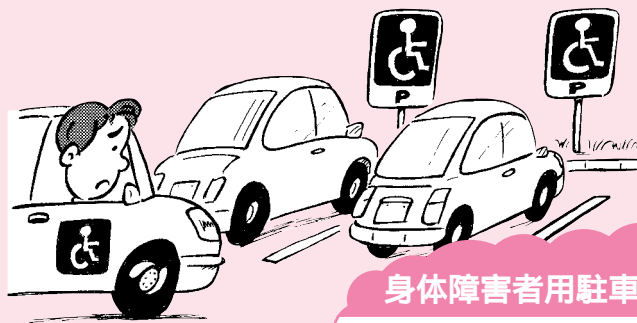
誘導ブロック上に物を置く

歩道に設置された誘導ブロックに物を置くと、目の不自由な人が安心して歩けません。



歩道の占拠

看板や車、自転車などで歩道をふさいでしまうと、車いすやベビーカーなどが通れません。



身体障害者用駐車区画への駐車

体の不自由な人のために設けられた区画です。特に車いすを利用する人は、ドアを全開するスペースがないと乗り降りできません。障害者マークを張っていない車の駐車は絶対にやめましょう。



バリアフリーのまちを実現するには、設備の整備だけでなく、みんなの理解や行動が大切です。体に障害のある人や高齢者も暮らしやすい社会にするために、心のバリアをなくしましょう。

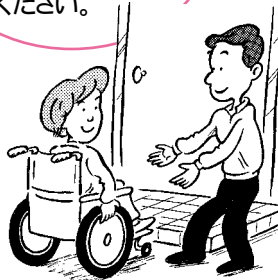
ちょっとした行動でバリアフリー推進

困っている人がいたら、声を掛けましょう

小さな段差などちょっとした障壁も、みんなが手助けしたらバリアではなくなります。本人の意志を尊重しながら、お手伝いをしましょう。

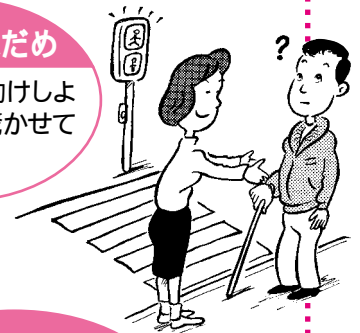
声掛けをする

まず、「どうされましたか？」と声を掛けてください。



いきなりはだめ

いきなり手助けしようとする、驚かせてしまいます。



やり方を聞く

どのように手助けしたらよいか、本人に聞いてみましょう。

盲導犬にご理解とご協力を

盲導犬は特別の訓練を受けていますから、ほえたり勝手に動いたりせず、排泄も十分にしつけられています。また、毎日ブラシをかけられるなど清潔にされています。視覚障害者が盲導犬とお店を訪れたときは、入店を拒否しないでください。また、まちで盲導犬を見かけても、体に触れたり、食べ物を与えたりしないようご協力ください。

